平成３０年度第２回陸前高田市総合教育会議　議事録

１　日　時　　平成３０年１１月２１日（水曜日）
　　午後３時５０分　開会
　　午後５時２６分　閉会
２　場　所　　市役所４号棟　第４会議室
３　出席者　　戸羽市長、金教育長、佐々木教育委員、伊藤教育委員、遠藤教育委員、
　　木下教育委員
４　事務局　　戸羽教育次長、熊谷学校教育課長兼学校給食センター所長、
　　中山教育施設整備室長、小野寺生涯学習課長補佐、佐々木副主幹

○生涯学習課長補佐

ただ今から、平成３０年度第２回陸前高田市総合教育会議を開会いたします。

はじめに、戸羽市長からご挨拶をいただきます。

○市長

委員の皆様には、お忙しい中お集まりいただきありがとうございます。

本年度２回目の会議となりますが、前回は、市内児童生徒の現状について報告させていただくとともに、教育振興計画の策定についてご意見を伺ったところです。

まちづくり総合計画についてですが、市内 11 か所での市政懇談会を終え、審議会から答申もいただいたところです。この計画に基づき教育振興計画を策定するため審議会において議論を行っていただいております。最終的には、委員の皆様に議決していただくことになりますが、策定状況を事前に承知していただき、あらかじめ計画に反映させることもあると思いますので、この後、事務局からも説明がありますが、ご意見をいただければと思います。

今後の陸前高田市を担っていくのは、まさに小中学生ですので、その教育には力を注いでいかなければならないと思っています。本日は今後の方向性についても協議させていただきますので、忌憚のないご意見をいただければと思っております。どうぞ、よろしくお願いします。

○生涯学習課長補佐

次に、金教育長、挨拶をお願いいたします。

○教育長

委員の皆様には、日頃からたいへんお世話になっており、ありがとうございます。

私の中で今大きくなっているのは、不登校の問題です。そのあたりの実態を含めまして本日は報告をさせていただきたいと思います。

また、それらを受けまして、これから子ども達をどういう方向に導いていけば良いのかということについて、委員の皆様方と市長にご意見をいただければと思います。

本日はよろしくお願いいたします。

○生涯学習課長補佐

続きまして、次第３の報告に移ります。

平成３０年度陸前高田市の子供たちの様子について、学校教育課長から報告をいたします。

○学校教育課長

お手元の資料は、平成２７年度より毎年この時期に全戸配布をしているものです。委員の皆様には、事前に概要をお知らせしておりましたが、今回改めて内容について報告いたします。

学力面ですが、小学校２年生から中学校３年生を対象に毎年４月に行っている全国標準学力テストの結果です。小学生は国語と算数、中学生は全教科で行っています。グラフの青が当市、赤が全国の結果です。

これを見ますと概ね良好ですが、中学校の数学が若干課題であると言えます。これは高田だけではなく、ここ数年岩手県全体の課題でもあります。

今年度から大きく英語教育が変わりました。新しい学習指導要領が２０２０年度から始まりますが、英語については先行実施されており、従来５、６年生で行われていた外国語活動が３、４年生で行われ、５、６年生では外国語科という教科となっております。

市教委では、ＡＬＴを２人体制にしてほぼ毎時間授業に入り、生の英語に触れる機会を設けております。中学校では英語検定料の補助等の取組みを行っており、かなり高い合格率になっております。

次に、質問紙を学力とリンクさせた結果です。学力の高い子どもは、決まった時間に起き、朝ごはんをしっかり食べ、家の人との会話があるという結果になっています。

心の部分では、小学生は全国よりも高い割合で目標や夢を持っていますが、中学生になるとどうしても考え方が現実的になるため、同程度という結果です。

市教委では、全国の有名企業の方や国際協力団体の方をお招きして、仕事や自分の将来を考えるきっかけづくりにする「Make the Future」という取組みを行っております。

また、当市の子ども達は、約束やルールを非常によく守っているという結果が出ております。実際、生徒指導上の反社会的行動というのはほぼ皆無です。

携帯電話、スマートフォンの所持率は年々上がっていて、使用時間は中学生で２時間以上という生徒も多くいます。使用にかかる家族とのルールは、４割程が決めているということですが、トラブルに巻き込まれないよう学校と保護者との連携を強くしていかなくてはと考えていることころです。

体力、運動能力調査の結果ですが、６割を超えるところで全国平均を上回っており、震災後運動環境に恵まれない中でも深刻な体力の低下はみられません。

お陰様で、今年度前期には広田、米崎、矢作のグラウンドが復旧し、まもなく横田、竹駒、高田一中が完成予定ですので、年度内に全て完了する見込みです。

最後に、調査の中で運動能力と関連するとみられる項目ですが、達成感、挑戦、自己肯定感が高い子どもは運動も一生懸命やっている傾向があります。運動する中で培われていくものもありますので当然という見方も出来るかもしれませんが、褒めたり認めたりしてあげることが頑張ってみようという気持ちに繋がるということもあると思います。

岩手県では、通学やお手伝いも含めて１日に６０分以上運動しましょうという「いわてロク

マル運動」を進めていますので、家庭や地域でも取り組むよう投げかけをしています。
以上です。

○生涯学習課長補佐
ただいまの報告につきまして、ご質問、ご意見等ありましたらご発言願います。

○佐々木委員
先日テレビで見ましたが、過去問対策にかなりの時間をかけて成績を上げている学校がありました。授業の進度にも影響しているようで、先生方がプレッシャーのためにメンタルを崩していると紹介されていました。市内の状況はどうでしょうか。

○学校教育課長
おそらく全国的に問題となっているのは全国学力調査だと思います。県教委では、過去問は良問であるので機会を捉えて練習するのはいいけれども、あからさまにテスト前に集中してやるのは避けるようにという指導をしています。
市教委としても特にプレッシャーをかけているつもりはありませんが、先生方がどう感じているかはわかりません。

○佐々木委員
もしも現場が感じているとすれば、その声は拾っておいた方がいいと思います。

○学校教育課長
授業時間にテストをやることで時間的な負担というのはありますので、来年度はテストの教科ですとか実施学年についても削減する方向で検討を進めています。

○市長
これは物理的な話ではなくて、たとえば先ほどのように数学が弱いとなったときに、先生方を学校別に見る機会はあるのですか。

○学校教育課長
校長先生にはデータを提供するので、学校によっては先生方も目にすることはあるかと思います。

○市長
おそらくそういうプレッシャーなんだと思います。社会人として良くも悪くもプレッシャーは感じていただいていいのですが、それが子どもたちの学力云々ではなくテストの点数を取らせることが目的になってしまうと良くないですね。一度先生方にアンケートを取ってはどうでしょうか。

○伊藤委員

携帯電話とスマートフォンについてですが、以前はテレビの視聴だったと思います。これはノーメディアデーとは別個のものでしょうか。

○市長

おっしゃっているのは、一日にテレビを見る時間が多すぎて勉強をしないということだと思うのですが、これは、事件に巻き込まれる可能性があるということです。

○学校教育課長

テレビを見る時間についてのアンケートは別に取っています。高田の子どもは視聴時間が長いという結果になっています。

○佐々木委員

仮設住宅に住んでいる家庭には固定電話がありませんので、親が自宅にいる子どもと連絡を取りたい場合には、子どもにも携帯電話を持たせなくてはなりません。

震災前は子どもには携帯電話を持たせない方がいいという考えもありましたが、震災後はそれが言えなくなりました。

○市長

住宅再建後も固定電話を引かない世帯もあります。

○佐々木委員

今は公衆電話もありませんし、親とすれば持たせないわけにもいかないでしょう。

余所の地域と比べるとおのずと所持率は高くなると思いますが、持たせないというよりは使い方の指導というものが必要なのだと思います。

○学校教育課長

おっしゃるとおりだと思います。個々の事情がありますから持つなとは言えませんので、何らかのルールを作って指導していくことは必要だと考えています。

○生涯学習課長補佐

他にございませんでしょうか。

続きまして、平成３０年度いじめ不登校の状況につきまして報告をさせていただきます。

○学校教育課長

まず、いじめの現状について報告いたします。いじめの定義ですが、加害者側にその気がなくても行為の対象となった児童・生徒が心身の苦痛を感じていれば、いじめであるという捉え方です。

いじめ解消の定義もありまして、本人が心身の苦痛を感じていない期間が少なくとも３ヶ月

以上あるという場合です。

（以下、資料により説明。資料は、会議終了後回収）

いじめ、不登校の現状については以上です。

○生涯学習課長補佐

ただいまの報告について、ご意見、ご質問等ございましたらお願いします。

○伊藤委員

家庭環境と親子関係という表現がありますが、この違いを教えてください。

○学校教育課長

親子関係というのは、たとえば母親との分離できない結びつきですとか、父親との不仲といったことです。

○伊藤委員

DV を見せられることも子どもにとっては虐待になりますので見過ごせないのですが、対策はどのようにされていますか。

○学校教育課長

DV、虐待となれば、必ず市の福祉部署や児童相談所等の関係機関と連携し、定期的にケース会議を開いて対応をしています。

○伊藤委員

それでも改善しない難しさはありますね。

○学校教育課長

複雑な問題ですので、すぐには改善できないというのが現状です。

○市長

不登校について、言葉を選ばないで言わせていただきますが「予備軍」といった子ども達もいますか。

○学校教育課長

複数います。

○遠藤委員

いじめの重大事態はないということですが、どういった状態を重大と判断するのでしょうか。

○学校教育課長

いじめが原因で命の危険にさらされる状況になったり、不登校になったりした場合を重大と捉えています。その場合には、第三者委員会を設けて徹底的に原因究明をし、対策を講じるよう法で定められています。

〇教育長

昔、全国でいじめが原因で子ども達の自殺が多くあった時代がありました。おそらく総合教育会議という制度が出来たのもそういったことからだと思います。

何か辛いことがあったら誰かがなんとかしてくれるということではなくて、子ども同士で解決する力も必要だと思います。いじめを発見したら「やめろ」と言うとか、自分が「嫌だ」「助けてくれ」と言えるような力をつけていかなければならないと思っています。

〇木下委員

子ども同士で我慢することを覚えればいいのですが、どこで大人が関わればいのかが難しいところです。何がきっかけで自殺にまで至ってしまうのか。

そうなったときに学級で何が起こっているのかということに力を入れたいのですが、先生方も子どもと保護者の対応で疲れてしまっているのが現状です。

〇佐々木委員

他には、障がいのある子どものケースですと、相手の気持ちが理解できないために、やりすぎてしまい傍目からはいじめと見られるとか、いじめを受けていても気が付かないといったことがあります。

アンケートの結果だけでは見えない部分もあります。いじめや不登校が１件発生すると、先生のエネルギーがかなり消耗します。

〇生涯学習課長補佐

報告については以上とさせていただき、協議に移ります。

協議の進行につきましては、市長に進行をお願いします。

〇市長

それでは協議に入ります。

⑴の今後の方向性と平成３１年度に予定している特徴的な取組を議題とします。説明をお願いします。

〇学校教育課長

１つ目は、『「使える英語」に特化（高田の強みを生かす）』です。

これまでは、学校でいくら英語を勉強してもなかなか使えるようにはならなかったという現状があります。

今は、英語関連の支援団体もたくさんありますし、クレセントシティとの交流も始まりました。また今後は、外国からの訪問客も増えると予想されますので、それらを活かしながら使え

る英語に取り組んでまいります。

２番の「学校不適応対策（急務）」ですが、学校とジャンプスクールとの繋ぎを来年度は更に強化していきます。また、教育相談員が家庭を訪問するなどして、家庭との連携を密にとってまいります。

３番「教員の指導力向上」です。今年度は、震災後初めて公開授業を行いました。教育委員会からは大きな研究成果は求めないことにしていますが、学校側はつい一生懸命になり負担となる側面もありますので、もう少しラフな授業交流のあり方を検討していきます。

教員の海外派遣研修も計画しておりまして、今のところ隔年で行いたいと考えております。

名古屋市交流については、生徒同士の交流は来年度から３サイクル目に入りますが、今後は教員間での交流や研修も進めてまいります。

最後の「その他」ですが、まさに先ほどの市長と語る会を教育委員さんにもご覧いただきましたが、発表の得意な子だけが話して終わるというデメリットもあります。今後は市長に学校に出向いていただくという会の持ち方も検討していきます。以上です。

〇教育長

補足させていただきます。英語教育についてですが、今までは生涯学習と学校教育がリンクしていませんでした。それを体系的に組み合わせて、体験させて、英語を好きになってもらおうとするものです。

学校不適応については、親にたくさん働きかけて一緒に子どもの目を学校に向けていくというスタンスです。

指定校研究については、校長先生方から非常にたいへんだったという声がありましたので、それよりは子どもと向き合う時間を長くしようとするものです。以上です。

〇市長

只今の補足説明も含めて、皆様からご意見がありましたらお願いします。

〇佐々木委員

使える英語は大賛成です。海外に行って実感しましたが、反面、店員さんがおつりの計算ができないことがありました。日本だと小学１、２年生でもわかりますから、日本の教育は素晴らしいとも感じました。

子どものうちに英語のシャワーをどんどん浴びせて、臆せずに話せるようになってもらいたいと思います。

〇伊藤委員

英語検定の検定料補助が中学生からということですが、もし予算が取れるならば、小学生からチャレンジできる仕組みがあれば前向きに英語を学ぼうという気持ちになるかと思います。

You tube 上でのかんたん英会話の配信というのはどういったものでしょうか。

〇教育長

たとえば、市のＡＬＴにお願いして、食事や買い物をするときに使える英語を１０分程度の動画にまとめて配信するという、あくまでも構想です。

〇佐々木委員

不適応の部分の学校とジャンプの繋ぎですが、学校の関わり方が課題になると思います。

ジャンプでの様子や指導がどの程度共有できるのか、学校が主になって関わるという印象ですが、どうでしょうか。

〇学校教育課長

ジャンプから学校には報告書を出しますし、時々は学校からジャンプを訪問しています。相談員が学校に出向く時にも報告はしています。

〇佐々木委員

今も震災による教員の加配はありますね。その先生をうまく活用できないでしょうか。

〇市長

加配については市役所も同じです。平成３２年度を過ぎると厳しくなります。

本来の先生の数でジャンプスクールとの関わりを持たなくてはならないので、今のうちから計画的に先を見据えた動きをしていっていただきたいと思います。

〇木下委員

研究指定校については賛成ですが、昔の指定校とは違うニュアンスがあります。

震災前の「仮説をつくって研究して成果を発表する」ということを止めました。授業の中で必ず子どもがつまずく場面があるのですが、先生がそれに気づかずに自分のペースで進めてしまうことがあります。いい考えを持っている先生方がたくさんいるので、その考えを出し合えるような場になるといいと思います。

〇佐々木委員

私も基本的に賛成です。従来型の学校公開というのは、型を大切にしすぎて疲れてしまうということがありました。ただ、まったく気軽にしてしまうと、先生方が指導を受ける機会がなくなりますし、授業の技術を学ぶ機会も必要だと思います。

〇遠藤委員

英語教育についてですが、学校側が非常に忙しい状態の中で、外部から働きかけをされた時に余裕をもって受け入れられる体制が必要ですし、小学校の授業ではいわゆる読み書きそろばんが中心だと思うのですが、それが縮小されていくのは残念だとも思います。

英語が話せるようになったとしても計算ができなくなるのは困るので、そのあたりのバランスを取っていただきたいと思います。

○市長

英語を学校で教えるとなると「勉強」になってしまいますが、そうではなくて、世界の人と友達になるためのツールです。教育長がおっしゃるように、興味を持たせて頑張る気持ちにさせるというのが基本だと思います。

計算が得意なのは日本人のいいところですから、やはりそこも伸ばしていかなくてはならないですね。

協議の１については案として出されておりますので、今日の皆様のご意見等を参考に肉付けさせていただくということでよろしいでしょうか。

（「異議なし」の声あり）

それでは、次の協議に移ります。

第９次陸前高田市教育振興基本計画の策定についてを議題といたします。

○教育次長

計画の素案が出来てまいりまして、次回の分科会に向けて準備を進めているところです。市の総合計画が１２月議会に提案される予定で、もし継続審査となれば３月に議決となります。

その推移を見ながら審議会の答申を受け、３月の定例会で審議、議決をいただく予定です。

（以下、資料により説明）

委員の皆様には、お目通しいただきご意見を頂戴したいと思います。

今後は審議会で審議し、パブリックコメントも実施してできるだけ多くの方の意見をきいたうえで、教育委員会の議案として提案したいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。

○市長

今の説明について、ご質問はございませんか。

それでは、以上で予定をされておりました協議は終了いたしました。

○生涯学習課長補佐

ありがとうございます。

次に、次第の５ですが、事務局では特に準備してございません。委員の皆様から何かございましたらお願いします。

（「なし」の声あり）

以上を持ちまして、平成３０年度第２回陸前高田市総合教育会議を終了させていただきます。どうもありがとうございました。